



### 紫式部も通った深坂古道の散策

いつのことだったか忘れましたが、TYで深坂地蔵の放映がありました。平安時代平清盛は日本海から琵琶湖に通じる運河を開削しようと長男である重盛に工事を命じました。

この工事は琵琶湖運河といわれているもので清盛から命じられた重盛は運河の開削を始めたが、深坂峠で大岩にぶつかり工事が進むことができなくなった。それは工事中に出くわした大岩を砕こうとした時に、工事の人夫達が皆体調不良となってしまう工事ができなくなってしまったのです。不思議に思い大岩を掘り起こすとそこから地蔵がでてきました。そのため平清盛も工事の中止を決め、琵琶湖運河の夢は消えしました。この工事を止めた地蔵は「掘り止め地蔵」とよばれ地蔵堂が建てられ祀られました。平安時代の運河計画は、今津浜から大川を遡り日本海へ抜ける日本海から琵琶湖に繋がる運河の開削計画でした。

その後1960年代の高度成長期に政治家・大野伴睦による運河の夢（日本海と太平洋を結ぶ）という「日本横断運河（敦賀港を起点として琵琶湖を経由し伊勢湾）」計画へと運河構想は続きましたが、大野伴睦の死去や莫大な工事費用や環境問題・自動車等の交通機関の進展などにより計画は中止され、ついに完成することはなかった。今回は清盛が計画した日本海から琵琶湖に抜ける運河計画の話が残る深坂古道を新疋田駅から近江鶴ヶ丘バス停まで歩くことにします。

この古道は紫式部の父親藤原為時が越前国守に任じられ一緒に歩いたそうです。万葉集の歌人である笠朝臣金村も歩いたそうで道中には二人の歌碑があります。

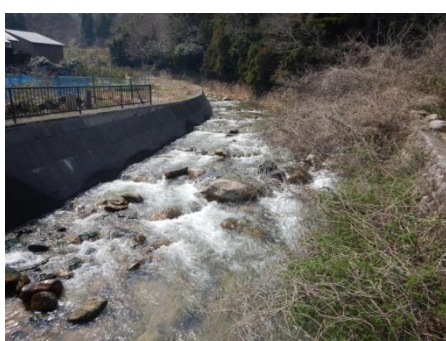
さらにこの古道には日本の三関所の一つである愛発の関があったのではないかとわれ調査が行われたが関所の跡は見つからず現在も不明です。しかし、愛発（あらち）という地名があることから、このあたりに愛発関があったのではないかと考えられます。愛発関の詳細については元奈良大学教授・福井市文書館記録資料アドバイザーによる「古代越前国と愛発関」の添付資料を参照してください。

＜担当 A グループ 李三・福嶋明＞

- 1：日時 2026年5月21日（木）10時 天気による判断は前日の夜確認メールします
- 2：集合 JR湖西線 新疋田駅（大阪発・7時47分 京都発・8時19分新快速「敦賀行」にご乗車）
- 3：持ち物 弁当、飲み物、雨具、ストック、双眼鏡等
- 4：目的 近江国塩津から越前国敦賀を結ぶ古道歩き（塩津山越・塩津道とも呼ばれる）
- 5：行程距離 約6km 深坂古道の地図（別紙添付資料参照）
- 6：行程 新疋田駅・南無阿弥陀仏碑・疋壇城跡・疋田舟川跡・愛発舟川の里展示室・新疋田駅（昼食・トイレ）・深坂古道入口・紫式部歌碑・笠金村歌碑・深坂峠（休憩）・深坂地蔵（休憩・トイレ）・深坂問屋跡・鶴ヶ丘バス停～近江塩津駅  
15:11のバス（解散）



新疋田駅



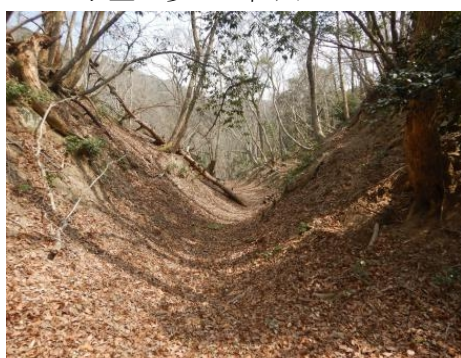
水量の多い五位川



笠朝臣金村の歌

左端の写真は父親の赴任先越前に行く途中深坂古道を歩いた時に紫式部が詠んだ歌です。

清盛が計画した運河の跡である疋田舟川跡や展示室・疋壇城跡にも訪れたいと思っています。



← 深坂古道